

【第153回対策本部会議】 3月9日

健康福祉部長／令和4年6月以降の1週間ごとの陽性者数の推移は、1月1日の週がピークで約1万3,000人。最近は、500人台に減った。第7波後の一番下がったときが約1,200人。そのときと比べると、約半分以下に落ちた。

1日の感染者数は、先週までは落ち続けていたが、今週に入り横ばい傾向になった。ゲノム検査の結果、XBB.1.5のような変異株は確認されていない。

病床使用率は、2月24日に129日ぶりに1桁になり、その後14日連続で1桁が続いている。高齢者の感染に伴う入院が、断続的にでている。

感染者が発生した施設には、保健所から医師や保健師の指導を継続している。引き続き感染状況等を注視し、重症化リスクが高い高齢者への感染拡大防止に取り組む。

県民の皆様には、換気等の基本的な感染防止対策をお願いする。

国の方針で、5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、2類から5類に変わる。それに伴う検討案が、近々国から発表される。国から示された対応案を基に、医師会や医療機関等と協議し、県の方針を決めたい。

坂本副知事／5類に変わると定点観測になり、5月以降は今のようデータはなくなるのか。

健康福祉部長／インフルエンザと同じ扱いになるので、このようなデータはこない。

知事／1回目の対策本部会議は、令和2年3月13日。そこからほぼ3年が経過した。

新型コロナウイルスは様々な変異株が発生し、それに応じた対応を迫られた。当初は、若い人でも亡くなることがあり、厳しい対応を迫られた。傾向が大きく変わったのが、令和4年1月のオミクロン株への変異。感染者が、1日3,000人を超える日もあった。一方、若年層の重症化リスクがなくなり、感染対策の中心は病院と高齢者施設に変わった。

3月13日から、国のマスク着用の方針は、個人の判断が基本になる。本県も、これまでどおり個人の判断となる。それぞれの判断が尊重される雰囲気をつくっていきたい。

子どものマスク着用は、大切なものを失う懸念がある。この年頃は、表情や身の回りを見て吸収し、成長していく大切な時期。また、子どもたちが自らマスク着用を判断することは難しい。

4月1日から、教育現場での着用しないことが国の基本になる。基本的にはマスクは

着用しないが、それぞれ事情があるため、しても構わないと大人が示してほしい。迷いや不安が生じる場面あっても鷹揚に構え、それぞれの立場を尊重する社会にしたい。

新型コロナウイルスの対応は、病院と高齢者施設が中心になってきた。引き続き、対応していただいている関係者の皆様に感謝申し上げます。

今後も、ゲノム解析などで感染状況を注視し、必要に応じて皆様にお伝えする。緊急の場合は、対策本部会議を開きメッセージを発出する。